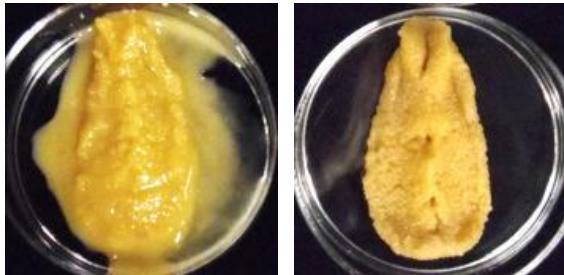


背景

- 日本海沿岸の磯焼け漁場にいるキタムラサキウニは、餌不足のため身が小さく、利用されていない。
- 10月の繁殖期には、天然のウニは市場に出回らず、価格が高騰（端境期）。

成果

1 繁殖期（10月）の「身溶け」抑制



「身溶け」したウニ 「身溶け」しないウニ

- 海洋深層水を利用した低温飼育による成熟抑制技術を確立

期待される効果

- 海洋深層水を利用した給餌型低温蓄養システムを普及。
- 高付加価値ウニの生産による「儲かる養殖業」への展開。

2 餌料用コンブの開発



- 施肥ジェルによるコンブ幼体の成長促進（貧栄養海域での餌用コンブ生産技術開発）
- 空ウニの身入り向上

3 事業規模蓄養に成功



深層水で、水温調節

漁港に浮かべた、事業規模水槽

- 効率の良い養殖方法を開発（適正密度、溶存酸素、アンモニア濃度）
- 高い市場価値を確認（大折りウニ、塩水ウニ）

蓄養：捕獲した魚介類を短期間飼育すること
 身溶け：繁殖期に、ウニの身が溶けたようになること（可食部は生殖巣、放精・放卵の準備）
 空ウニ：餌（海藻）不足で生殖巣の発達が悪く、中身が空になったウニ